

■ フランスギクの侵入状況

フランスギクはヨーロッパ原産の帰化植物であり、江戸時代末期に観賞用に持ち込まれた。花壇などに植栽されているが、路傍や法面などに広く野化している。ワイルドフラワーとして播種されたり、工事で発生した法面の緑化では、吹き付けに使用される牧草の種子にフランスギクの種子が混入していることがあるらしく、分布拡大の原因となっている。英名 Margueritae (マーガリート) と呼ばれる。ただ、この花と花の形がそっくりなマーガレットと呼ばれる園芸種のモクシュンギクとは区別する必要がある。地面にロゼットを形成し、初夏に茎をもたげて次々と白い花を咲かせる。元々寒冷地の種であり、高冷地で広く帰化している。美しい花を咲かせる植物ではあるが、山岳地帯の国立公園などでは道路の法面などに広く生育し、在来種と競合して問題となっている。

フランスギクは繁殖力が強く、増殖スピードが非常に速い。伊吹山頂部では、6月中旬から咲き始め9月までに結実するため、2回の抜き取りが必要。ただ、開花時、除去したものをそのまま放置すると、そこから結実した種が落ちるため、完全な除去方法を講じる必要がある。



▲ 除去され路上に放置されていたフランスギクは、すでに結実していて、そこから風や人の衣服等で運ばれ、散々する。

伊吹山ドライブウェイから運ばれた ▶ フランスギクは、山頂8合目の駐車場で生育。その種子は、人が踏み込めない断崖下に散らばり、もはや施しようのないところまできている。今後、駐車場から山頂にも侵入することは必至であり、早急に除去および侵入防止に取り組む必要がある。



■ ハルサキヤマガラシの侵入状況

ヨーロッパ原産。高さ 30 ~ 70cm の多年草。ここ急速に、分布域を拡大し、すでに北海道、信州、中部の自然公園などの入口道路に侵入し、除去の対象となっている。特徴としては、繁殖力が強く1個体で6万個の種子をつくる。伊吹山では、



山頂西コースに侵入 2008.06.08



伊吹山ドライブウェイ中間にあるポケットパーク 2008.05.18

ドライブウェイ沿道から山頂駐車場、そして、すでに東・西コースに侵入しているのを確認。ここには、同アブラナ科で在来種であるイブキガラシ (ヤマガラシ) が生育しているため、その交雑が懸念される。

■その他の外来植物の侵入状況

掲載写真は、現在、登山道や山頂に目立つ、その他の外来植物である。これらは、本来ある植生や生態系にどのような影響をもたらすか定かでないが、すでに蔓延しているヒメジョオン、セイヨウタンポポなどが、生物多様性を脅かす特定外来植物として指定されている限り、無視することはできない。

ただ、植物にかかわらずこれらの侵入生物が生物多様性に問題を引き起こすことが疑われる時は、「潔癖が証明できるまで、罪あり」という姿勢でのぞむことが必要と考えられている。



山頂周辺に繁茂するオオアワガエリ 2008.08.03



三合目で目立つオーチャードグラス 2008.07.12

・オオアワガエリ＝イネ科に属するユーラシア原産の牧草で、チモシーと呼ばれ、日本でも牧草として栽培され、全国に広く野生している。大都市でも空き地や堤防などに生息し、郊外の住宅地では身近に多数繁茂して、4～7月に花粉症を引き起こす。花粉相互の共通抗原性が強く、実際はどの植物の花粉症かは判然としないので「イネ科花粉症」と呼ばれる。主に夏に飛散するオオアワガエリは、夏風邪と勘違いするケースが多く注意が必要と言われている。

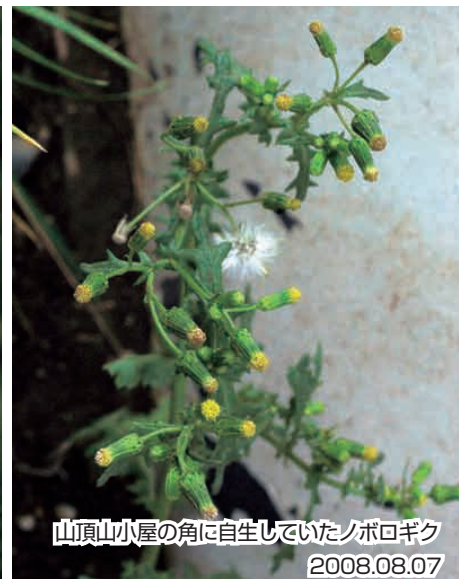
・オーチャードグラス（カモガヤ）＝オオアワガエリ同様、牧草として栽培されたが、生態系に係る被害として、北海道や、本州の亜高山帯にある国立・国定公園に侵入するなどしており、固有性の高い生態系や脆弱な生態系において、植物群集の構造を改変しているとの報告がある。



三合目の路傍に繁茂するブタクサ 2008.08.16



三合目で開花するオオマツヨイグサ 2008.08.16



山頂山小屋の角に自生していたノボロギク 2008.08.07

・ブタクサ＝明治初期に渡来した北アメリカ原産の帰化植物。分布は全国に広がる。雌雄同株の風媒花で開花時期は7～10月頃。花粉アレルギーの原因植物の一つとして有名で、日本国内ではスギ、ヒノキに次ぐ患者数が存在するとされる。

・オオマツヨイグサ＝北米原産の帰化植物。秋に芽生えてロゼットで越冬し、初夏に花茎を伸ばして美しい花を咲かせる。群生した場合、在来植生への影響が大きい。また、オオマツヨイグサより分布域を広げている同じ仲間のマツヨイグサの侵入も注意する必要がある。

・ノボロギク＝ヨーロッパ原産の帰化植物。道端、空き地、原野などに生え、茎の高さが10～40センチになる。明治初に渡来し、現在はいたるところで生える。繁殖力は極めて強く、花は、雪に埋もれなければ年中つき、厄介な雑草として定着する。